

## 本島コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 1 月 24 日（水） 午後 0 時 30 分～午後 2 時 00 分

場 所：本島コミュニティセンター

参加者：12 名

担当者：市長、地域担当職員 三浦（本島市民センター）・秋山（本島市民センター）、塩田（広聴広報課）、中原（広聴広報課）

### 1. あいさつ

#### （会長）

今日はみんなでまちづくり市長と語る会、にじまるの綺麗な船でゆったりと瀬戸大橋を横に見ながら市長にも本島に来ていただきたかったが、天候が悪くスリル満点な船旅だったようである。本島では、こういう気象条件の悪いときもある。したがって、島民の生活環境、足を確保するということが非常に大切なことである。

コミュニティの役員並びに連合自治会、岡田議員も出席いただいている。時間はあまりないが、市長と十分な語らいをしたいと思う。今日はよろしく願います。

#### （市長）

今日の語る会、楽しみにしていた。よろしく願います。

まずは、日頃から本島の皆様には丸亀市政に対して本当にご理解をいただき、また、色々なご協力ご支援をいただいていることに、この場を借りて本当に御礼を申し上げる。

私は、今年の 4 月でちょうど 3 年になる新米の市長であるが、毎日、元気なまちづくりをするにはどうしたらいいかを考え、取り組んでいる。まだまだ不十分なところばかりで、今日このような会で直接ご意見を聞かしていただき、またそれに取り組んでいこうと思っている。

まず、話したいのは 1 月 1 日に発生した能登での大地震について。石川県七尾市は 50 年前から親善都市協定を結んでいる。私はすぐに七尾市長に連絡を入れたかったが、迷惑だと思い、翌日まで待ち、「何でもするから遠慮なく言ってください」とお伝えした。その際、「物はいらぬ、人がほしい」と言われたので、5 日から職員 3 名を派遣した。向こうも慌ただしい状態なので、状況報告を受けながら、物資の受け入れなどの作業に取り組んだ。現在も交代で常時 3 名の職員が七尾市の指示を仰ぎ、作業をしている。先週末に、観光協会の方と市職員で、うどんの炊き出しを行った。水なども全てこちらから持って行き、お昼前から 8 人で 1,000 食、翌日も 1,000 食作った。私も経験があり、500 食作るのも大変だったので、正直できるのだろうかと思っていたが、七尾市の方も 6 名が手伝ってくれたおかげで、あまりお待たせすることなくうどんを提供でき、とても喜んでいただいたことを報告する。

南海地震もいつ来るかわからない。来ないに越したことはないが、来るものだと想定し、丸亀市としても能登での経験も活かして、より一層の準備をしていこうと思っている。

この後どうぞ忌憚のないご意見をよろしく願いたい。

## 2. 第1部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

### (コミュニティ1)

次第に沿って進めたいと思う。まず、会長から地域の紹介と地域の課題をお伝えし、その後、市長からご意見をいただきたい。離島の防災について、高齢者の移動手段について、大きく2つのテーマがあるが、続けて発表いたしたい。

### (会長)

本島地区の現状や課題について、述べさせていただく。皆さんご存じのとおり、島しょ部のため、買い物や通院、生活に関わる様々な分野について、色々な不安や不便が多々あるかと思う。人口についても、私が生まれた当初は2,000人以上住んでいた。本当に賑やかだったという印象がある。平成22年頃には506人、令和5年には255人と、減少の一途を辿っている状況である。

その中でも、皆さんが安心して暮らせる島ということで、丸亀市では自治会加入率100%のところはないと思うが、自治会との繋がり、隣同士の繋がりということを非常に大切にしている島ということもあり、ほとんどの方が何らかの自治会に入っている。

防災・救急面では安心安全のため、小阪地区にヘリポートを新設した。非常に心強く、ありがたく感じているが、ヘリの着陸場所だけ簡易舗装されており、その周囲はそのまま整備されていないような状況である。消防職員、消防団員がその周辺の草刈りなど、ヘリの運航に支障が出ないように協力して維持管理をしている。消防職員の方も業務の合間を縫って参加している。また、消防団員については、60歳以上が10名、60歳以下は20名程度しかいない。団員についても高齢化が進んでいる中で、普段の業務をやりながらの作業になるので、負担になってきている。草刈りで出たごみの処分にしても経費を使ってクリーン課が来て回収する必要がある。島しょ部消防団員の救急時の負担軽減については、消防本部でも検討いただき、前進していると感じているが、草刈り、ごみの処分、ヘリ運行時の飛散物の軽減、また、島しょ部の安心安全のため、今後ヘリポートをコンクリートで整備することは検討いただけないか。

次に、高齢者の移動手段について。本島では市の移住促進政策のおかげもあり、子どもの数が増えているが、高齢化率は上昇している状況である。令和2年度の高齢化率は本島が59.8%、牛島は84.2%にもなっている。

高齢のため自動車の運転ができず、移動手段のない方も多い。島内では、船便の発着時刻に合わせて、1日5便コミュニティバスが運行しているが、乗り降りに段差があるため高齢者が利用しづらいといった声や、本数が限られているため診療所や郵便局など用事を済ませるには、バスを利用できないといった声がある。

そこで、高齢者が移動手段としてバスを活用できるよう、ノンステップバスへの変更や、増便について検討いただけないか。また、牛島においては船着場での客船への乗り降りに階段を利用しなければならず、本島よりさらに高齢化が進む住民にとって負担となっている。大々的な工事は難しいと思うが、これに対するいい方策はないか。

以上3つの質問について、ご回答よろしく願います。

**(市長)**

1つ目のドクターヘリの離着場所については、港の一部を利用して防災ヘリの離着陸場所を建設し、令和4年4月にドクターヘリの離着陸場所として正式に登録されている。草刈りについては、地元の消防団員の皆様方にご足労をいただき、大体年2回実施いただいている。ご協力は本当にありがたい。

ドクターヘリを運航するのが県であるため、県と港を管理する建設課で協議をしてもらうよう私から話をする。個人的には言われたように、その場所はコンクリートなどで整備するのが一番いいと思っているので、県の方とも早い段階でしっかりと協議をしていく。

2つ目のコミュニティバスについては、フェリー等の発着時刻に合わせて組んでいる。島民の方々の生活リズムも考慮すると、やはり本数も少ないし、思うようなときに移動できないということも考えられる。増便については運転手の手配や労働条件、増便した時の運行経費がどれぐらいになるのかということ、改めて琴参バスとしっかりと話し合うよう指示する。

もう1つ、ノンステップバスへの変更については、バス車両の変更には多大な経費がかかるという話を聞いているが、これは車両の買い替え時期に、ノンステップのバスへの切り替えも検討するよう指示する。バスの買い替えはまだ先だが、その時が1つの目安だと考えている。いずれにしても、皆が生活しやすくなるような方向で取り組んでまいらる。

それともう1つ、牛島の船着き場については、今日来る時に見えた。波が高く、階段も波を被っていた。手すりは今1段だけだが、今の位置が少し高めと聞いているので、その下側にもう1つ手すりをつけることによって、しっかりと持つことができると思っている。まずはそれを検討していく。その他、階段をもう少し緩やかにしたり、段を増やしたりするとなれば、大幅な改良となるが、そこもしっかりと視野に入れて検討していきたい。

いずれにしても、先ほどの繰り返しになるが、島の方々の生活が安全で便利になることを丸亀市としてもしっかりと取り組んでいきたい。

**(コミュニティ1)**

ただいまの意見について、質問はないか。

**(コミュニティ2)**

ドクターヘリを依頼したら、10分ぐらいで島に着く。消防団員については、それまでにヘリポート内の飛散物を確認するなど、運航の安全確保が1つの仕事になっている。また市内と違い、救急搬送についても団員が行っている状況である。そういった事案が発生した場合、団員にとっては両方動かなくてはならない状況になっているので、協議の際には、市長からもそういう事情をしっかりと伝えていただき、前向きに進めていただきたい。よろしく願います。

バスについても、運航状況を変更するとか、西回り東回りで回っているがもう少し方向を自由に、月2交代とかそういう形でできないものかなと思っているのでよろしく願いたい。

**(市長)**

まず、ヘリポートについては、安全上、飛散物があつてはいけないと思う。ただ、お話しした

とおり、県が絡んでくるので、協議してからでないと結論はでないが、前向きに結果を出していきたいと思う。バスについても、便数をもう少し増せるかということは、琴参バスと協議する。

### 3. 第2部 テーマ選択方式による意見交換

#### (コミュニティ1)

続いて、テーマ選択方式による意見交換に入る。テーマについては、「快適な住環境の形成」についてテーマを選択した。これについて、会長の方から説明をお願いします。

#### (会長)

快適な住環境については、先ほども話したが、離島という地理条件のため、陸地部と比較して、不便、不利な面がたくさんある。

それを解消すべく、市の方にもご尽力いただいて、ヘリポートの設置だったり、光ケーブルが使用できるようになってインターネット環境が良くなったりと、だんだん良くなってきているが、島民の移動などについては、まだまだ陸地部に比べて必要な費用がかかる。運賃の島民割引については、今までは難しい状況であったが、市長や議員のおかげで実現し、非常にありがたいと思っている。

しかし、そういった割引はあるものの、現に離島で生活していくには、陸地部に比べて色々な費用がかかってくることに変わりはない。そういった中で、運賃割引の拡充など、さらに1歩踏み込んだ補助をお願いしたく、テーマを選択した。

#### (コミュニティ1)

続いて、テーマに沿った具体的な意見を、笠島地区自治会長からお願いします。

#### (コミュニティ3)

先ほど会長から話があった、船賃補助や片道2回分の車両航送料免除等の実施については感謝申し上げます。しかしながら、車両航送料免除については、通勤や高校生の学校行事、買い出しをするには、申し上げるのは心苦しいが回数が十分であるとは言いがたい。本島丸亀往復で1台当たり7000円～9000円程度の費用がかかるため、島内用に1台、陸地部用に1台車を所有する方も多く、車両維持経費、駐車場代の費用が負担となっている。車両航送料についての補助拡充についての考えをお示しいただきたい。

続いて、広島では島民の運営するガソリンスタンドが閉店することになったとお聞きした。本島島内では、漁協がガソリンスタンドを運営している。漁業者がいる限り存続するものと思っているが、先行きに不安を覚えている。ガソリン価格については陸地部より割高であるが、離島ゆえ事業者を選択する余地がないのは仕方がないと理解をしている。しかし、港や診療所などへの移動に多くの方が自動車を利用せざるを得ない状況であることから、ガソリン代についての補助等のお考えもお示しいただきたいと思う。

ガソリンの使用を控え環境に配慮するという観点からも、電気自動車の購入費用補助を島し

よ部について拡充するといったことも考えられるのではないかと思う。

(コミュニティ 1)

車両航送料の補助、ガソリン代の補助、電気自動車購入費の補助、この3つの意見について、市長からご回答いただきたい。

(市長)

まず1つ目について、島での生活は航路代が負担になっていると思い、市ではこれを少しでも軽減したいと考えている。今現在、旅客運賃や車両航送料に対する補助を行っているが、これがまだまだ不十分であるということも認識している。

私は、本島広島を中心とした島々は丸亀市の宝だと思っており、多くの方々にこの綺麗な景色を見てもらいたいという思いもある。私自身も本島に来ることはわくわくして楽しい。船から降りた途端に、何とも言えない懐かしい感じ、いい雰囲気味わえる。そういったことを、全国や世界中の方々にも味わってもらいたいという気持ちを持っている。

そのためにも、島に住んでいる皆様方が、今後も長く生活ができるためにはどうしたらいいか、今日お話しいただいたことも受けとめながら、陸地部に住んでいる方と同じような生活費に向かっていければ一番いいと思っている。一遍にはできないが、そういう方向での検討を職員挙げて進めていこうと思う。

次にガソリンについて。丸亀市に限らず、全国的に陸地部と比較して島で住んでいる方々のガソリン代はかなり高いという状況である。その中で、現在、国が出している離島のガソリン流通コスト対策事業では、割高なガソリン代を値引きしてサポートするという取り組みが実施されており、丸亀市としても国がやっている現行の制度をもっと拡充してほしいということを言っていこうと思っている。

先ほども言ったが、島での暮らしが持続可能になるような、その生活を守るという観点から、国と県の方に私自身もしっかりと要望をしていき、また、丸亀市としての支援制度も取り組んでいきたいと思っている。すぐにどうということはないが、少しずつ良くしていきたいと考えている。そこには議員のご協力もいただいいていこうと思っているのでどうぞよろしくお願いしたい。

3番目について、丸亀市もゼロカーボンシティの宣言をして、ゼロカーボン室を作り、温室効果ガスの削減に取り組んでいる。その一環として、令和5年度から環境性能にすぐれた自動車を購入した方に対して、購入費用の一部を補助する制度を創設している。この制度は国の補助制度とあわせて活用をしていく仕組みになっており、導入費用の軽減を図ることができると考えているので、まずは現行の制度を活用いただければと思う。

電気自動車の数は増えてきているが、まだ多くはない。電気自動車の充電をする所は、丸亀市役所では現在2つだけだが、次の年度にもっと増やしていこうと思っており、ゼロカーボンに対する自動車については、今日お話しいただいたことをしっかりと記録し、随時、前向きに検討をしていきたいと考えている。

#### (コミュニティ 1)

今の市長の回答に対して、質問等ないか。せっかく市長が見えているので、今の件でなくても、質問等あれば、すぐ答えられるかどうか分からないが、ぜひお話いただきたい。

#### (市長)

丸亀市は2年前に敬老祝い金を80歳の方々にも1人1万円お渡しできるようにした。80歳になった方は、その時1年だけではあるが楽しみにしてもらいたいと思う。

最近で言うと、去年の4月から小中学校の給食費無償化、18歳までの医療費無償化を行った。両方をやっているところは、私が知っている限りは中四国ではどこもないと思っているが、このことは現在、国や香川県も検討している。この2つは、私が議員の頃から実現したいと夢に入れていたものだったので、実現できたことを喜んでいる。これは市民の皆様方のご理解と市政運営に対するご協力、また、職員もそれに向けて努力をし、次世代育成基金を50億円積むことができ、今後も継続してできるという方向になった。

その他にも子育てを中心とした支援をいろいろとやっており、例えば島であれば、高校生が帰るときの運賃は無料にすることに決まった。

その他今やっているのが、丸亀で取れた新米を、22歳までの方に5キロずつ送る。飯山にあるJAのお店に取りに行くのと運送料が無料になるので、取りに行く人には500円のクオカードをつけて渡すことを、1月の半ば過ぎから始めている。

その他には、2月終わりか3月になると思うが、生活支援ということで全世帯に5000円のガソリン券を配布する。ガソリン券が不要だという方には、タクシーチケットを配布する形をとっている。

子育てへのいろんな施策が多いが、それだけではなくて、もちろん特に島については先ほど言った、皆さんにも訪れていただいて見てもらいたいという気持ちがあるので、島に対する住んでいる皆様方の生活がずっと続けていけるような方策は常々考えていきたいと思っている。

#### (コミュニティ 4)

NPOの立場で話をするが、笠島の町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区。重要伝統的建造物群保存地区を保存する責任は丸亀市にある。市は条例を作って保存するということをきちりやっただけではない。私たちNPOは、行政が行う保存活用に協力をするという立場である。したがって、権限や責任は基本的にない。ところが、国、文化庁、県の教育委員会文化部も、市の文化財保存活用課も、私たちNPOに対する依存度をすごく上げてきている。市は、はっきり言って人手が足りなくて、市道の石が崩れたのを直すのが大変なので、そちらでできることはやってという立場。

誤解されているが、NPOは基本にお金を稼いでいない。丸亀市から支給されるお金で存続しているかという、そんなことはない。22万円もらっているが、それだけ。あとは指定管理ということで、建物の管理の委託、指定管理料はいただいているが、基本的にNPOは自分でまわしている。

今現在、特に国が非常に重要視、問題視されていることは、空き家が多すぎて今のままでは

維持ができない。人を入れろということである。それを最も重要な課題として、私 NPO の会長になってまだ1年であるが、そこを重点的に対応している。

その中で、丸亀市の移住者に対するリフォーム200万円の補助金、これは非常に重要である。しかし、その制度が所有者と買い手との直契約に限る。今、NPOとしてやろうとしていることは、NPOが所有者から空き家を借りて、それをプールし、借りたい人をデータベースに入れて、マッチングさせて入っていただくという方法を進めている。そのときに200万円の補助金が実は問題で、NPOが間に入ると補助金をもらえない。

なので、サブリースという形になったときにも補助金が出るようにしていただきたい。これは離島振興にお願いしている。善処すると言われていたが、ぜひ市長からプッシュしていただきたい。私たちは別に不動産屋として儲けるために間に入るわけでもないので、ここに入っても、リフォーム助成金は出していただけるように、来年度からしていただきたい。

あとは、要するにNPOが代わりにやってというのであれば、文化財保存活用課に予算をつけてNPOに仕事を業務委託で発注するという形にしてくれたら動けるのでお願いをした。来年度予算をつけるという話を、文化財保存活用課からいただいている。しかしながら、予算の話はわからないので、そこを市長に後押しをしていただけるようお願い申し上げます。

3点目、移住促進について。前回のコミュニティ総会で、市長がおっしゃっていたと思うが、移住促進のために引っ越し費を助成する。それから、家財の処分費用を助成するというお話があったと思うが、あれはいきているのか。NPOが間に入って家財を処分してあげることになったときに、補助金が出るのか、使えるのかお伺いしたい。以上である。

(コミュニティ1)

お答えできる範囲で市長お願いしたい。

(市長)

今言われた1番目2番目は、私の方からもう一度強く話をしておく。

(コミュニティ4)

離島担当は善処するとは言ってくれている。後に言った、NPOが仕事をするのに業務委託でできるための担当は文化財保存活用課。空き家対策は離島振興。

(市長)

きちんと話をしておく。

3番目の移住のときの補助について、これはずっといきている。引っ越し費用もいきている。申し訳ないが、NPOが間に入ったときについては分からないので。

(コミュニティ4)

制度は直契約だけ。これはNPOがサブリースになったときに動けるように。

(コミュニティ1)

市長、このようにNPOなり、コミュニティなり、第三者が間に入る場面が今出てきているので、これまでは民民、公公の売買での想定事業だったが、ケースが変わっている。同じことであるが助かることなので、同じ流れなのでそれを適用するという話である。今言ったこと以外

の補助金でも適応できるかもしれない。家の売買と引っ越しなどいうが、他にもあるかもしれない。その辺をいろいろ調査し、検討してもらいたい。

(市長)

よくわかった。すぐ話をするようにする。今後も、引き続きいろいろとご意見、ご指導いただくようお願いしたい。

(コミュニティ 1)

まだ少し時間があるようなので、皆さんこの機会にぜひ市長にお聞きしたいということがあれば、ぜひ発言していただきたい。

(コミュニティ 3)

これだけは言っておいてくれと託されてきた。来月 2 月が運賃無料の月であるが、本島はお大師まいりが 4 月にある。なぜ 4 月ではなく 2 月なのか。4 月にしてくれたらありがたい。

(市長)

おっしゃる通りだと思う。ただ、昨年 1 月、2 月にも運賃を無料にして、約 2 倍近くの方々が乗られて、日によれば乗り越したという方も一部あったと聞いた。担当部署としたら 4 月にしたら、今年の 2 月にしても臨時便をどうにか作らなくてはいけないという話をしており、4 月のその時であれば、おそらく臨時便も間に合わないと思って 2 月になったのではないかと考えている。

(岡田議員)

2 月になった経緯について、まず財源は、トリドールホールディング（丸亀製麺）さんから今回企業版ふるさと納税で 5000 万、丸亀市にいただいている。その中から 2000 万円を運賃補助 1 ヶ月、これは本島だけではなく、その他の島も、との要望があった。その内訳として、1 ヶ月が妥当であると。それで 2000 万。

4 月は年度が変わり、出来ないのでは 2 月か 3 月。3 月は気候も良く、私も 3 月がいいが、間違いなく人が多すぎて積み残しになる。人事異動など、その辺も含めて検討してもらった結果、やはり 2 月にして、祝祭日は臨時便を今回は全部していただくということになった。

それともう 1 つは、トリドールさんのふるさと納税を活用して改修した広島の待合所が明後日オープニングセレモニーをやる。広島にもたくさん人が行ってもらえるようになると思う。2 月無料化にすることによって、広島にも無料で行っていただく、誘発する流れがトリドールさんは持っていると思うので、そういうことも含めての 2 月だったと思う。

(市長)

岡田議員、正確な情報、感謝申し上げます。4 月になると行政は年度が変わり、予算的なものが違う年になってしまう。ご理解をよろしくお願いしたい。

(コミュニティ 1)

他にあるか。

(市長)

私から聞きたいことは、今のことで積み残しがいっぱい出たときに、ある程度までは臨時便

等は組めるが、例えば3月にやったときに、物理的に船の臨時便手当はできるものか。

例えば、2月に臨時便も多少は用意ができるけども、3月にやって、臨時便をどんどん出さなくてはならない場合になった場合。

**(岡田議員)**

臨時便は運輸局の許可が必要で、それがないと走れない。フェリーの運航は既に決まってしまった。瀬戸芸なんかはチャーター便で来る人がいたが、今回のケースは無料なので船で来るお客さんを島に渡る段階で管理すればいい。それだけで結構かと思う。

前は臨時便がなく、こんなに来るとは想定していなかったもので、今日市長の帰る便2時15分のにじまるは常に積み残しがあった。そのあと、2時半のフェリーが臨時便のときは乗れるが、それが通常ある便ではなくて5時10分なので、その間お客さんが時間を持て余していた。

今回は、その辺はうまくいくような気もする。予算も大幅に組んでくれているので。

**(コミュニティ1)**

本日は、本島地区の現状を市長に直接伝えし、島民と一緒に協議する機会を設けていただいた。みんなでまちづくり市長懇談会については、以上をもって終了とする。